

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 藤村
日 時	平成26年3月7日(金)		開 議 午後 1 時 30分
			閉 議 午後 4 時 45分
出席委員	吉田 中村 並河 田中 山本 石野 堤 木曾 ＜明田議長＞		
執行機関出席者	山内政策推進室長、桂政策推進室担当室長、竹村政策推進課長、柏尾政策推進課担当課長 岸企画管理部長、山本夢ビジョン推進課長、浦夢ビジョン推進課副課長、中川人事課長、片山 人事課副課長、内田秘書広報課長、西田秘書広報課副課長 俣野生涯学習部長、山内市民協働課長、仲田市民協働課副課長、福田市民活動推進係長 門総務部長、西田総務課長、野々村総務課副課長、栗林自治防災課長、畑中自治防災課主 幹、田中自治防災課副課長、湯浅消防係長、木村財政課長、小栗財政課副課長、吉田税務課 長、林税務課副課長 田川会計管理室長、山内会計課長、荻野会計課副課長 辻田教育部長、川勝教育部次長、河原教育総務課長、石田教育総務課副課長、樋口社会教 育課長、高屋図書館長、小西学校給食センター所長		
事務局	藤村次長、阿久根副課長		
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否	市民 4名	報道関係者 0名 議員 0名

会 議 の 概 要

1 開議

2 事務局日程説明

3 請願審査

(1) 受理番号3 原発避難計画に関する請願

< 吉田委員長 >

請願者から請願の趣旨について説明したいとの申し出がある。説明を受けることに
していいか。

了

< 吉田委員長 >

それでは請願者からの説明を許可する。ここで、委員会は休憩し、総務文教常任委
員会協議会に切り替える。

～ 13 : 32

(休 憩)

13 : 57

< 吉田委員長 >

休憩前に引き続き、委員会を開く。それでは、ここで、請願審査の参考とするため、

亀岡市の避難計画の現状等について主管課の説明を求める。

< 総務部長 > あいさつ

< 自治防災課長 > 資料に基づき説明

関西広域連合の取組状況を説明する。福井県嶺南地域に立地する15の原子力施設のUPZは、福井、滋賀、京都の3府県にまたがり、域内には52万人が居住している。各府県は、どのような事故に際しても円滑に避難できるようUPZ全体で広域避難計画の策定に取り組んでいる。各府県とも、状況に応じて柔軟時に対応できるよう、府県内の避難先に加え、府県外の避難先確保を希望しており、広域連合では、広域連合構成団体が避難先となる福井県嶺南西部、滋賀県、京都府の約25万人を対象に広域避難先の調整を図っているところであり、平成26年1月10日に原子力災害に係る広域避難ガイドラインの素案を示した。避難先と避難元をマッチングさせるために府県のカウンターパートを設定しており、京都府は兵庫県と徳島県の応援を求め、必要に応じては鳥取県の応援を求めることとなっている。UPZ圏外の京丹後市においても、高浜発電所から30～60km、大飯発電所から40～70km圏内にある。UPZ圏外ではあるが住民全員を対象とした避難計画を策定している。しかし、当初は災害協定を結んでいる兵庫県豊岡市を広域避難先として独自の計画を作っていたが、関西広域連合の避難計画では他の都市が豊岡市を避難先としていることから現在は具体的な避難先が示されていない状況にある。

安定ヨウ素剤の備蓄状況は、UPZ圏内の全人口約12万8千人の安定ヨウ素剤を京都府が購入し、UPZ圏内の医療機関において保管している。現在各市町村への配備を進めている。平成25年度には一時滞在者7万人分の追加備蓄をする方針と聞いている。また、圏外の安定ヨウ素剤の配備については、国の原子力災害対策指針により、今後検討すべき課題とされている。プルーム通過時の被ばくを避けるための防御措置を実施する地域があるが、その検討状況を踏まえ、今後配備を進めていくと聞いている。

これに対する亀岡市の考え方は、原子力災害に係る的確な情報を収集し、市民の方に提供し、迅速に情報を発信することを目的に平成25年5月、亀岡市危機管理計画に原子力災害における情報伝達に係る計画を定め対応してきた。しかし、京都府がUPZ圏内の広域避難者の受入れということで、綾部市から亀岡市に6,400人を受け入れてほしいと示されている。また、平成25年の9月に改正された原子力災害対策指針において放射性物質を含むプルーム通過時に放射性ヨウ素の吸入により甲状腺被ばくの被害が想定される区域、PPAの具体的な範囲を検討する段階に至ったので、去る2月19日開催の亀岡市防災会議で諮り、亀岡市地域防災計画の事故対策編に原子力災害対策計画を定めることで承認を得たところである。災害時の情報収集・伝達、市民を守る対応、広域避難の受入れを3つの柱にこの計画を策定するというのが現在の対応状況である。

～ 14 : 05

質疑

< 田中委員 >

市の計画はいつごろ完成するのか。

< 自治防災課長 >

亀岡市地域防災計画事故対策編の原子力災害対策計画は26年度早々に策定予定

で作業を進めている。

～ 14 : 06

< 吉田委員長 >

委員会討議の希望はあるか。

特になし

討論

< 田中委員 >

防災計画の中に原子力災害編を入れるということだがそれを私たちもしっかりとチェックしていく必要がある。最悪の事態を想定して準備することが一番大事である。紹介議員にはなっていないが賛成する。

< 木曾委員 >

本市で作るのは関西広域連合の素案を受けての原子力災害対策計画だと思う。それももちろんだが、請願の趣旨はそれ以上に市民の健康を守ることなので非常に意義あるものだと考える。今後の亀岡市の指針としてしっかり踏まえていく必要がある。賛成する。

～ 14 : 08

採決

< 吉田委員長 >

採択することに賛成者の挙手を求める。

挙手全員

採択

< 吉田委員長 >

ただ今採択された請願について、地方自治法第125条に基づき、執行部に送付すること、また、請願の処理の経過及び結果の報告を請求することについて諮る。そのように取り計らってもいいか。

了

< 吉田委員長 >

それでは、そのように取り扱う。

～ 14 : 10

(休 憩)

14 : 18 ~

4 議案審査

【政策推進室】

(1) 第58号議案 平成25年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

政策推進室長 あいさつ

政策推進課長 説明

～ 14 : 30

質疑

< 田中委員 >

P 3 1、バス交通関連経費の補助金、負担金が減額され、歳入ではふるさとバス関係が減額になっているが、これは乗客が減ったのか、増えたのか。

< 政策推進室長 >

細かい分析はまだだが、乗客が増えて収入が上回り、不足分が減った。市からの補てんが減ったということ。それに伴い、府補助金も減った。

~ 1 4 : 3 2

1 4 : 3 4 ~

【企画管理部】

(1) 第 5 8 号議案 平成 2 5 年度 亀岡市 一般会計 補正 予算 (第 5 号)

企画管理部長 あいさつ

各課長 説明

~ 1 4 : 4 7

質疑

< 田中委員 >

P 2 5、企画推進経費委託料減について、アンケートが未実施の理由は。

< 夢ビジョン推進課長 >

住み心地向上プロジェクトで小学校 4 年生から 6 年生までの放課後の居場所づくりの検討を進めている。モデル的に 1 校、1 箇所を実施して、結果を踏まえてアンケートを実施するということが計上していたが、モデル的に 1 箇所での実施に至っていないのでアンケートも実施しないことになったもの。

< 石野委員 >

退職金の平均額は。

< 人事課長 >

3 3 人の退職金の平均は 2 , 1 8 8 万 9 , 0 0 0 円。

< 木曾委員 >

P 2 5、自治功労者経費について、自治功労者の会は簡素化されて参加人数も減っている。今後どうしていくのか。いろんな人の意見も聴いて考えてみてはどうか。自治功労者へのねぎらいの場なので、もう少し考えていく必要があるのではないかと。

< 秘書広報課長 >

自治功労者の会は以前は、日、場所を替えて実施していたことがあったが、自治功労者から意見があって、今の形態で経費の半分ほどを個人負担いただいている。2 , 0 0 0 円以外は公費から支出している。おっしゃる通り、ねぎらいの場であるので、御意見をいただきながら検討していきたい。

< 木曾委員 >

アルコールが出るので案内時に交通手段確保も含めて伝えるよう配慮を。日にち、場所を替えて、会費ももらってきちとした形ですとかいろいろある。今後、考えてもらい、より良いものにし、自治振興式典が盛り上がるようにされたい。

~ 1 4 : 5 2

(2) 第 4 3 号議案 亀岡市部設置条例の一部改正

夢ビジョン推進課長 説明 <資料参照>

~ 14 : 57

質疑 なし

<人事課長>

先ほどの退職者の数は行政職員のみである。医療職員は入っていないので了解願う。

~ 14 : 58

14 ; 59 ~

【生涯学習部】

(1)第58号議案 平成25年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

生涯学習部長 あいさつ

市民協働課長 説明

~ 15 : 07

質疑

<並河委員>

亀岡会館のカーテンはどこが洗濯するのか。

<市民協働課長>

指定管理団体がする。ライフパートナーである。

<中村委員>

生涯学習基金の元金は。

<市民協働課長>

25年度末の見込みは、1億2,183万4,878円。

<中村委員>

どんな運用か。

<市民協働課長>

基金管理は財政課でしている。

<木曾委員>

P25、京都学園大学との連携事業に係る補助金減について、きちっと精査し予算をつけるよう以前指摘したにも関わらず、減額補正するのは何が原因か。

<市民協働課長>

亀岡モデル創生会議で亀岡市の地域課題とマッチングさせる中で精査した結果、最終的に大学院生の研究が1件にとどまった。

<木曾委員>

学園大学との連携は大切である。亀岡市が主導してしっかり中身を絞り込んで予算をつけるべきである。中身のあるものにしていかないといけない。もう一度点検されたい。

<市民協働課長>

大学生はいろんな形でしっかり活動している。大学は18件で、予算以上に充実したが、大学院生は1件しかなかった。予算額が適正化かどうかは検討をしている。

<木曾委員>

せっかく予算がついているので、災害時のFM局との連携とか含めて研究してもらったらどうか。有効に使っていけるように。指摘とする。

～ 15 : 14

15 : 16 ~

【総務部】

(1)第58号議案 平成25年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

総務部長 あいさつ
各課長 説明

～ 15 : 42

質疑

<木曾委員>

歳入のP15、ふるさと力向上寄附金について、もう少し工夫を加えて多く確保すればと思うがどうか。

<財政課長>

例えば岐阜県各務原市は飛騨牛を出しており、産品につられて寄付が増えているのかと思う。本市は制度の趣旨、建前を尊重している。大都市に遍在する税の再配分とし、また自分の税金を使いたいところに使いたいという納税者の思いがあり生まれた寄附金制度である。税控除対象は2千円からであるので、その分を産品として贈ることとなった。12月定例会でも他市の紹介をいただいたが徐々に導入時の趣旨が変わってきている。市町村間での寄附金の奪い合いになっている。かかる経費と効果も考えながら研究はしていきたい。

<木曾委員>

自主財源の確保のために言っている。いろんな工夫を凝らして取り組む姿勢がないと難しい。活発な取り組みを。

<財政課長>

ごもつともである。基本的には安定的な財源を図ることを考えていきたいが臨時的な財源も研究していきたい。

～ 15 : 48

(2)第66号議案～第74号議案 平成25年度亀岡市亀岡財産区特別会計補正予算(第1号)他8財産区特別会計予算

自治防災課長 説明 <資料参照>

質疑 なし

～ 15 : 56

(休 憩)

16 : 06 ~

【会計管理室】

(1)第58号議案 平成25年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

会計管理室長 あいさつ
会計課長 説明

～ 16 : 10

質疑

< 木曾委員 >

公用車委託経費、嘱託職員の報酬減について、残額があるのなら議長車の運転に回してもらえれば。どんな運用か。

< 会計課長 >

公用車の運転は、職員、再任用職員、嘱託職員の3名で運用しており、議長車についても出来るだけ運用している。

< 堤委員 >

市長車の運転手分は含んでいるのか。

< 会計課長 >

市長車は含まれていない。

< 堤委員 >

この嘱託職員はどんな業務を担当か。

< 会計課長 >

つつじ、さくら等の運転を含んでいる。現在、職員、再任用職員、嘱託職員の3名で運用している。

< 堤委員 >

予算特別委員会で改めて質問することとする。いつから議長車の運転手がいなくなったのか。行革の関係でそうなったのか。事務局が要求しないのか。

< 会計管理室長 >

私も財政課にいたのでよくわかるが、会計管理室の所管ではない。

< 並河委員 >

P15、東つつじヶ丘市営住宅跡地は代替えという説明だったが、それ以外は全て売却済みか。

< 会計課長 >

それ以外は全て売却済みで、予算以上の収入を得られたところもあるが、プラスマイナスして、今回の減額補正額となったものである。

～ 16 : 19

16 : 20 ~

【教育部】

(1) 第58号議案 平成25年度亀岡市一般会計補正予算(第5号)

教育部長 あいさつ
各課長 説明

質疑 なし

～ 16 : 37

それでは、本日はこれで閉議する。

16 : 45 閉議